

兵庫県立福祉のまちづくり研究所機関評価調書

【1 機関の概要】

1 機関名	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
2 所在地	神戸市西区曙町1070
3 設置根拠規則等	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所の設置及び管理に関する条例(平成5年10月8日条例30号) 改正平成18年3月24日条例2号(第4条管理:指定管理者制度関係)、改正平成21年4月1日条例17号(家庭介護・リハビリ研修センターとの一体化に伴う整備)
4 設置目的	すべての県民がいきいきと生活できる福祉のまちづくりを推進するための工学等に関する総合的な研究開発並びに介護及びリハビリテーションに関する研修等を行うとともに、それらの成果を広く県民に提供する。
5 所掌業務	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉のまちづくりを推進するための福祉用具、住宅その他の建築物、道路等(以下「福祉用具等」という。)の研究開発を行うこと 2 福祉のまちづくりを推進するために研究開発を行った福祉用具等を展示し、及びこれを県民の利用に供すること 3 介護に関する研修およびリハビリテーションに関する専門的な研修を行うこと 4 福祉のまちづくりに関する情報の収集及び提供を行うこと 5 福祉のまちづくりに関する相談に応じること 6 身体障害者の更生に必要な義肢及び装具の製作及び修理を行うこと 7 市町、他の研究機関等との相互協力を行うこと 8 前各号に掲げるもののほか、研究所の目的を達成するために必要な業務
6 内部組織	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略企画課 ・ロボットリハビリテーションセンター 最先端歩行再建センター ・ロボットリハビリテーションセンター ロボットリハビリテーションセンター課 ・介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター 介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課
7 部等の事務	<ul style="list-style-type: none"> ○経営戦略企画課 <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理・運用 ○ロボットリハビリテーションセンター 最先端歩行再建センター <ul style="list-style-type: none"> ・人間装着型ロボットを用いたリハビリ手法の開発・確立・普及 ○ロボットリハビリテーションセンター ロボットリハビリテーションセンター課 <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット技術の研究開発 ・安全安心なまちづくり・すまいづくりの支援等に関する調査研究 ・福祉用具等の研究開発 ・小児筋電義手バンクの運営 ○介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター 介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課 <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット・高機能自立支援機器等の実証評価・導入支援 ・福祉用具の普及啓発(福祉用具展示ホールの運営等) ・障害者・高齢者支援の要となる人材育成のための研修の実施
8 沿革	<p>《設立前》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S46. 4 「兵庫県立姫路義肢修理所」の事業が社会福祉事業団へ受託されたことに伴い「義肢装具開発課」を設置 ・S47. 4 義肢装具課に2名のエンジニアを配置し、義肢、車いす等の補装具を中心とした研究開発を開始 ・S49. 4 リハビリ分野の発展と福祉機器等へのニーズの高まりから、エ

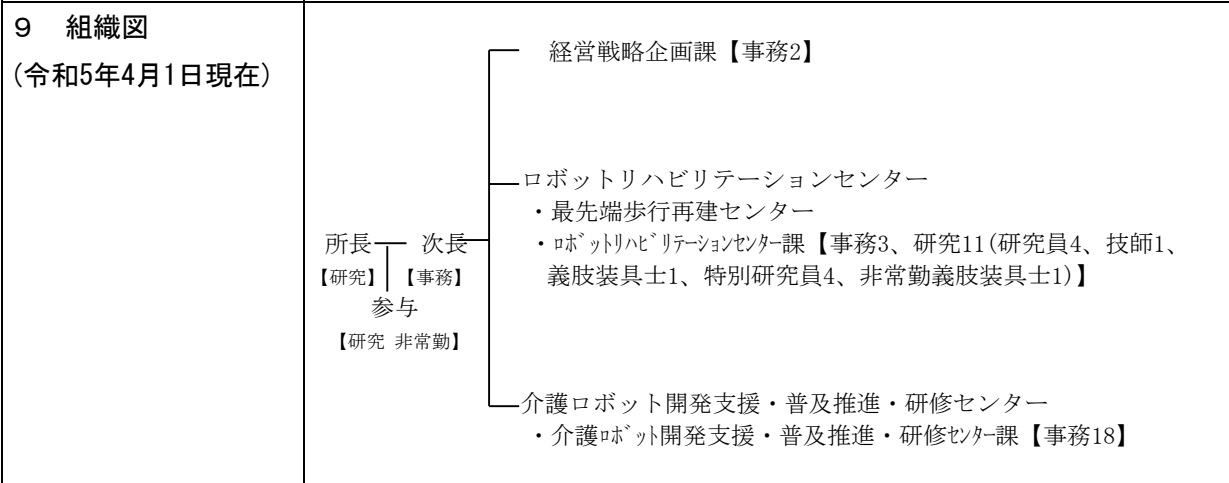
	<p>ンジニア 1 名を増員し、補装具以外の福祉用具、機器の研究開発を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S52. 7 全国に先駆け福祉機器展示場を持ち技術相談、情報収集提供、技術サービス部門として「生活科学課」を設置 <p>《設立準備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H4. 10 全国の都道府県に先駆け、県は「福祉のまちづくり条例」を制定 ・H5. 4 県福祉部長寿社会政策局企画室内に「設立準備室」を設置 ・H5. 5 第1回設立検討委員会の開催（5. 1 1） ・H5. 9 「ひょうご福祉のまちづくり国際セミナー」の開催 <p>《設立》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H5. 11 「福祉のまちづくり工学研究所」設立 企画情報課、研究第一課、研究第二課の3課体制 ・H6. 9 「福祉のまちづくり運営懇話会」の開催 ・H7. 9 第1回「企画運営委員会」の開催 ・H8. 4 研究第三課、研究第四課を加え5課体制に ・H8. 11 新研究棟竣工 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H17. 9 文部科学省により「科学研究費補助金を受けるための学術研究機関」として認定 ・H19. 12 内閣府特命大臣より「平成19年度バリアフリー化推進功労者表彰優良賞」を受賞 ・H20. 12 兵庫県より「平成20年度兵庫県健康福祉部長表彰」を受賞 ・H21. 4 家庭介護・リハビリ研修センターと統合し、名称を「福祉のまちづくり研究所」と改称 ・H23. 4 中央病院ロボットリハビリテーションセンター開設 ・H24. 4 中央病院ロボットリハビリテーションセンター支援開始 ・H25. 4 ロボットリハビリテーション普及推進事業受託 (ロボットリハビリテーションプロジェクトチーム設置) ・H25. 9 (公財)テクノエイド協会より「介護ロボット普及モデル事業」を受託 ・H25. 11 兵庫県立福祉のまちづくり研究所創設20周年記念式典開催 ・H26. 6 リハビリテーション中央病院に小児筋電義手バンクを開設 ・H26. 10 第6回ロボット大賞「審査員特別賞」を受賞 ・H27. 4 研究2グループ体制を研究課に改編し、「ロボットテクノロジー」「居住支援」「移動支援」の研究ミッション体制へ移行 ・H28. 4 ロボットリハビリテーションセンター及び小児筋電義手バンクの運営をリハビリテーション中央病院から研究所に移管。企画情報課及び家庭介護リハビリ研修センター課を廃止し、ロボットリハビリテーションセンター課及び研修課を設置 ・H29. 10 企業の介護ロボット開発を支援する開発支援窓口を開設 ・H30. 11 「次世代型住モデル空間」を開設（介護ロボットに関する企業への開発支援や福祉現場への導入支援を推進） ・H31. 4 「介護ロボット開発支援・普及推進センター」を開設（実用的な介護ロボット等の開発・導入支援、普及を推進） ・R2. 4 「経営戦略企画課」を設置（知的財産の管理・運用を中心とした事業推進体制の強化） 介護ロボット開発支援・普及推進センターを「介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター」に改編 「介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課」を設置 (介護ロボット等の開発・導入支援と普及、福祉人材の育成に資する研修の有機的な機能連携)
--	--

研究課を廃止し、研究機能をロボットリハビリテーションセンター課に統合（「ロボットテクノロジー」及び「AI・コミュニケーション」の2つの研究ミッションによる重点項目に集中した研究体制の構築）

研修課を廃止し、研修機能を介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課に統合（有機的な機能連携による業務の推進）

「ニーズ・シーズ 介護ロボサロン」を開設（実用的な介護ロボット等の開発に向けた福祉現場と開発企業の交流機会を創出する場等に活用）

・R3.4 ロボットリハビリテーションセンターに「最先端歩行再建センター」を開設（人間装着型ロボットを用いたリハビリ手法の開発・確立・普及を推進）



10 職員数の推移

区 分	30年度	元年度	2 年度	3年度	4年度	5年度
事 務 職	20名	21 名	23 名	24名	23名	24名
研 究 職	13名	13 名	12 名	10名	13名	13名
うち正規・特別	10 名	10 名	9 名	8名	11名	11名
うち非常勤	3 名	3 名	3 名	2名	2名	2名
合 計	33名	34 名	35 名	34名	36名	37名
研究職平均年齢	48.6歳	49.6歳	50.3歳	48.2歳	45.1歳	45.5歳

11 実施業務数の推移 (単位：件) ※試験分析は該当なし	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	研究課題	4	4	4	4	4	4
	新規研究	1	1	1	2	1	0
	継続研究	3	3	3	2	3	4
	普及指導	440	350	238	220	226	60
	試験分析						
12 事業費の推移 (各年度4月1日現在/ 単位：千円) ※全額一般財源	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	人 件 費	106,828	106,828	106,828	106,828	106,828	106,828
	試験研究費	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500
	事 業 費	10,728	10,766	10,758	8,916	8,911	8,857
	施設維持費	37,148	37,148	37,148	37,148	37,148	37,148
	合 計	161,204	161,242	161,234	159,392	159,387	159,333
13 競争的資金等外部 資金獲得状況 上段：件数(件) 下段：金額(千円)	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	競争的資金	4	3	2	3	4	3
		1,920	3,965	2,795	4,875	4,226	4,680
	受託・ 共同研究	2	4	2	1	1	1
		4,080	5,809	5,701	685	1,300	3,900
	そ の 他						
合 計	6	7	4	4	5	4	
	6,000	9,774	8,496	5,560	5,526	8,580	
※詳細別紙のとおり							
14 試験分析手数料等 収入の状況 ※該当なし	手数料等の 種 目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	合 計						

15 施設・設備の状況 (令和5年4月1日現在)																																		
(1) 土地の状況 ※総合リハの各施設が使用している全敷地であり、各建物ごとの区分なし	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所在地</th> <th>地目</th> <th>公有財産台帳面積</th> <th>取得年月日</th> <th>現在の使用状況</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神戸市西区曙町 1070</td> <td>宅地</td> <td>101,197.61 ㎡</td> <td></td> <td></td> <td>県有地を管理</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>101,197.61</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	所在地	地目	公有財産台帳面積	取得年月日	現在の使用状況	備考	神戸市西区曙町 1070	宅地	101,197.61 ㎡			県有地を管理	合計		101,197.61																		
所在地	地目	公有財産台帳面積	取得年月日	現在の使用状況	備考																													
神戸市西区曙町 1070	宅地	101,197.61 ㎡			県有地を管理																													
合計		101,197.61																																
(2) 建物の状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所在地</th> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">公有財産台帳面積</th> <th rowspan="2">取得年月日</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>建面積</th> <th>延面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神戸市西区曙町 1070</td> <td>福祉のまちづくり研究所棟</td> <td>2,203.06 ㎡</td> <td>6,450.84 ㎡</td> <td>H8.11.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同上</td> <td>ウエルフェアテクハウス</td> <td>114.40 ㎡</td> <td>196.58 ㎡</td> <td>H8.3.18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2,317.46</td> <td>6,647.42</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	所在地	名称	公有財産台帳面積		取得年月日	備考	建面積	延面積	神戸市西区曙町 1070	福祉のまちづくり研究所棟	2,203.06 ㎡	6,450.84 ㎡	H8.11.6		同上	ウエルフェアテクハウス	114.40 ㎡	196.58 ㎡	H8.3.18		合計		2,317.46	6,647.42									
所在地	名称			公有財産台帳面積				取得年月日	備考																									
		建面積	延面積																															
神戸市西区曙町 1070	福祉のまちづくり研究所棟	2,203.06 ㎡	6,450.84 ㎡	H8.11.6																														
同上	ウエルフェアテクハウス	114.40 ㎡	196.58 ㎡	H8.3.18																														
合計		2,317.46	6,647.42																															
(3) 設備の状況 (500万円以上の重要物品(車両を除く)について記載)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>性能構造形式等</th> <th>数量</th> <th>取得年月日</th> <th>購入価格</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">理化学及び計測機械</td> <td>万能引張圧縮試験器</td> <td></td> <td>1</td> <td>H5.3.17</td> <td>11,433,000</td> <td>材料試験室</td> </tr> <tr> <td>NCフライス盤</td> <td></td> <td>1</td> <td>H5.3.19</td> <td>9,352,400</td> <td>機械加工室</td> </tr> <tr> <td>静的負荷試験器</td> <td></td> <td>1</td> <td>H7.3.31</td> <td>8,950,700</td> <td>機械加工室</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20,785,400</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	種類	性能構造形式等	数量	取得年月日	購入価格	保管場所	理化学及び計測機械	万能引張圧縮試験器		1	H5.3.17	11,433,000	材料試験室	NCフライス盤		1	H5.3.19	9,352,400	機械加工室	静的負荷試験器		1	H7.3.31	8,950,700	機械加工室	合計					20,785,400	
区分	種類	性能構造形式等	数量	取得年月日	購入価格	保管場所																												
理化学及び計測機械	万能引張圧縮試験器		1	H5.3.17	11,433,000	材料試験室																												
	NCフライス盤		1	H5.3.19	9,352,400	機械加工室																												
	静的負荷試験器		1	H7.3.31	8,950,700	機械加工室																												
合計					20,785,400																													
16 試験研究機関を取り巻く現状・課題・環境の変化等	※各試験研究機関を取り巻く現状・課題・環境の変化等について簡潔にわかりやすく記入 「本当に役立つもの」の実用化・事業化のための体制づくり ・企業との共同研究や成果物の商品化、普及促進に資するため、知的財産のマネジメント機能の充実が必要 ・介護現場への介護ロボットの導入を推進するため、介護ロボットに対する正しい知識を有し、適切に扱うことができる人材を育成する体制が必要																																	

【2 中期事業計画における取り組み】

<p>17 各機関の個別取組 項目</p>	<p>※各試験研究機関の基本的方向を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的研究等の推進 企業との共同研究を含む実践的な研究に加えて先進的・国際的な研究を推進するとともに、認知症や高齢者の健康長寿など、ユニバーサル社会づくりの実現を図る調査研究・研究開発等を推進する。 ・開かれた試験研究機関・研究体制づくり ユニバーサル社会の実現に向けて、研究成果を広く県民に還元するため、研究成果を発信・提供し、他の研究機関との情報の共有や交換を積極的に推進するとともに、企業や大学等との連携による製品化や国内外の技術協力・技術移転を推進する。 ・立地環境を生かした多様なニーズ発掘、研究の充実と関係機関等との連携 立地環境（病院、福祉施設等と隣接）を生かし、関係機関等との連携を強化しながら多様なニーズの発掘や臨床実験等によるニーズにあった完成度の高い研究成果の創出を図る。また、高齢者施設との連携を強化し、介護ロボットに対する正しい知識・取扱いに秀でた人材を育成する。 さらに、隣接する病院と連携し、最先端の人間装着型ロボットを用いたリハビリテーション手法を開発・確立する。 ・福祉のまちづくりの研究ネットワークの形成 関連学会等と人的・知的ネットワークの形成を図ること等により、福祉のまちづくりに係る情報を発信する。 																								
<p>(1) 主な研究成果</p>	<p>【県受託研究】</p> <p>《研究数》</p> <table border="0"> <tr> <td>令和2年度</td> <td>4件</td> <td>6,500千円</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>4件</td> <td>6,500千円</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>4件</td> <td>6,500千円</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>4件</td> <td>6,500千円</td> </tr> </table> <p>《研究テーマ：ミッション研究》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モーション・パラメーター臨床技術開発 (R2) ・介助用車椅子の安全な移動情報提示に関する研究開発 (R2) ・認知症高齢者が自立生活できる住環境に関する研究開発 (R2～R3) ・モーションパラメータを活用した AI 技術開発 (R3～R5) ・高齢者や障害者向けのモビリティ技術開発 (R3～R5) ・高齢者のためのスマート住空間整備に必要な要素に関する研究開発 (R4～R5) <p>《研究テーマ：特別研究(現場ニーズに即した研究開発・商品化)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人用筋電義手の開発 (R2～R3) ・フェースシールドの開発・商品化 (R2) ・小児訓練用筋電義手の開発 (R3～R5) ・食器把持自助具の開発 (R3～R4) <p>【外部資金研究】</p> <p>《研究数》</p> <table border="0"> <tr> <td>令和2年度</td> <td>4件</td> <td>8,496千円</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>4件</td> <td>5,560千円</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>5件</td> <td>5,526千円</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>4件</td> <td>8,580千円</td> </tr> </table> <p>《研究テーマ：科研費》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者への生活・自立・介護のための空間的配慮とその評価に関する研究 (R2～R3) ・感覚統合能力評価インターフェイスの提案 (R2～R3) ・手先特性に応じた生活動作のサイバーヒューマンモデルに関する研 	令和2年度	4件	6,500千円	令和3年度	4件	6,500千円	令和4年度	4件	6,500千円	令和5年度	4件	6,500千円	令和2年度	4件	8,496千円	令和3年度	4件	5,560千円	令和4年度	5件	5,526千円	令和5年度	4件	8,580千円
令和2年度	4件	6,500千円																							
令和3年度	4件	6,500千円																							
令和4年度	4件	6,500千円																							
令和5年度	4件	6,500千円																							
令和2年度	4件	8,496千円																							
令和3年度	4件	5,560千円																							
令和4年度	5件	5,526千円																							
令和5年度	4件	8,580千円																							

	<p>究 (R3～R4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と介護ロボットが共存する新たなスマートセンシング住空間モデルの構築 (R4～R5) ・ICT を導入したハイブリット型支援のフレイル予防の有効性と社会インパクトの評価 (R4～R5) ・変形性膝関節症患者に対する足部振動刺激の提示が歩行修正に及ぼす効果の検証 (R4) ・仮想空間を活用した運動イメージ誤差の視覚的フィードバックシステムの開発 (R5～) ・スマートセンシングと機械学習を用いたフレイル評価システムの有効性の検証 (R5～) <p>《研究テーマ：委託事業等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児の日常生活において両手使用を必要とする動作を支援する機器 (R2～R3) ・排泄支援アシストロボットに関する研究開発 (R2) ・未来社会創造事業「ヒューマンデジタルツインを活用した身体モビリティデザイン」義足を用いた歩行への介入効果の検証 (R4～R5) <p>【共同研究】</p> <p>《研究数》</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">令和2年度</td> <td>8件 (内訳：企業等5、大学3)</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>9件 (内訳：企業等7、大学2)</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>7件 (内訳：企業等3、大学2、県工技センター2)</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>4件 (内訳：企業等2、大学2)</td> </tr> </table> <p>《研究テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝手術後における術後効果測定 (H29～R2) ・脊髄損傷者向け排泄支援装置の導入効果 (H29～R3) ・嚥下・認知に関するデータ解析手法 (H29～R3) ・個人認証を用い行動変容を促す認知症者の在宅見守りサービス用ロボットシステムの開発 (R1～R2) ・排泄動作支援ロボット (SATOILET) に関する研究開発 (R1～R3) ・介護施設の業務改善を目指したセンサ統合システム運用研究 (R1～R2) ・障害児の日常生活において両手使用を必要とする動作を支援する機器 (R1～R3) ・認知症高齢者への生活・自立・介護のための空間的配慮とその評価に関する研究 (R1～R3) ・生活支援ロボットの制御ならびに臨床的訓練導入に関する研究 (R2～) ・デジタルファブリケーション技術と従来成型技術を融合した筋電義手用グローブの開発 (R2～R3) ・障がい児スポーツ用車椅子を折りたたみ可能にする軽量構造技術の開発 (R3～) ・高齢者や障害者向けのモビリティ技術開発 (R4～) ・デジタルファブリケーション技術及びロボット技術を用いた医工連携における適応型福祉機器・モデルの研究 (R4～) ・排泄支援アシストロボットに関する実用化に向けた研究開発 (R4) ・福祉工学におけるAI技術の活用 (R4) ・AI技術を応用した身体機能評価システム (R4) <p>【主な研究成果物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル対策のための健康評価システム (R2) ・フレイル対策のための健康体操 (RoboWELL 体操) (R2) ・フェースシールド (R2) 	令和2年度	8件 (内訳：企業等5、大学3)	令和3年度	9件 (内訳：企業等7、大学2)	令和4年度	7件 (内訳：企業等3、大学2、県工技センター2)	令和5年度	4件 (内訳：企業等2、大学2)
令和2年度	8件 (内訳：企業等5、大学3)								
令和3年度	9件 (内訳：企業等7、大学2)								
令和4年度	7件 (内訳：企業等3、大学2、県工技センター2)								
令和5年度	4件 (内訳：企業等2、大学2)								

	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者に必要な情報を光と音声で伝えるホワイトボード(R2) ・成人用筋電義手(R3) ・排泄動作支援ロボット(SATOILET)(R3) ・車椅子使用者の能力と勾配との数理モデル(R3) ・高齢者にやさしいビデオ通話システム(R4) ・フレイル対策のための反応時間評価ゲーム(おとさんぼ)(R4) ・フレイル対策のための運動機能評価システム(スマート椅子)(R4) ・車椅子使用者の身体能力と勾配に着目したバリアフリーマップ(R4) <p>【特許等】</p> <p>《特許》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29. 09. 15 特許第6208707号 排尿支援装置 ・ H30. 06. 29 特許第6360003号 医療用立体モデルおよびその製造方法 ・ H31. 02. 15 特許第6479376号 可動義手 ・ R01. 12. 27 特許第6637116号 医療用立体モデルおよびその製造方法 (分割) ・ R02. 06. 05 特許第6713562号 可動義手 (分割) ・ R03. 04. 21 特許第6872340号 電動義手 ・ R03. 04. 23 特許第6873871号 運動器作動力推定システム ・ R03. 08. 03 特許第6924056号 衣類 ・ R03. 12. 28 特許第6924056号 眼球運動評価支援システム及び眼球運動 評価支援方法 ・ R04. 06. 16 特許第7090286号 電池内蔵義手 ・ R04. 09. 01 特許第7134371号 運動機能評価システム、運動機能評価方法 及び運動機能評価プログラム ・ R05. 06. 06 特許第7291305号 経路案内システム、経路案内方法及び経路 案内プログラム <p>《特許出願》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R05. 03. 30 特願2023-056188号 着座運動機能評価システム、着座運動 機能評価方法及び着座運動機能評価プ ログラム <p>《実用新案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25. 01. 08 登録第3187864号 食器保持具 <p>《商標登録》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25. 03. 22 登録第5568045号 ロボットリハビリ ・ H31. 04. 19 登録第6138421号 B o d y - K I N ・ H31. 01. 25 登録第6116250号 R e h a - R i b b o n ・ R02. 07. 08 登録第6584540号 R e h a - R i b b o n (ロゴマーク) ・ R02. 07. 08 登録第6584541号 R e h a - R i b b o n (キャラクター)
(2) 普及指導実績	<p>【開発・導入支援実績】</p> <p>令和2年度 39件 令和3年度 76件 令和4年度 89件 令和5年度 28件</p> <p>【福祉用具展示ホール研修・相談実績】</p> <p>令和2年度 199件 令和3年度 144件 令和4年度 137件 令和5年度 32件</p> <p>【介護ロボット等の開発・導入支援、普及推進関係イベント】</p>

	<p>令和2年度 介護ロボットの常設展示、企画展示・特別展示会等 兵庫県内福祉用具展示3施設による合同展示、企画展示等 ひょうご KOBE 福祉用具・介護ロボットフェスティバル 介護現場等におけるお困りごと発表会 ノーリフティングケア研修</p> <p>令和3年度 介護ロボットの常設展示、企画展示・特別展示会等 兵庫県内福祉用具展示3施設による合同展示、企画展示等 介護現場等におけるお困りごと発表会 ノーリフティングケア研修</p> <p>令和4年度 介護ロボットの常設展示、企画展示・特別展示会等 兵庫県内福祉用具展示3施設による合同展示、企画展示等 ひょうご KOBE 福祉用具・介護ロボットフェスティバル 介護現場等におけるお困りごと発表会 ノーリフティングケア研修</p> <p>令和5年度 介護ロボット導入体験会・活用施設見学会 介護ロボットの常設展示、企画展示・特別展示会等 兵庫県内福祉用具展示3施設による合同展示、企画展示 ひょうご介護ロボット導入・生産性向上推進フェア 介護現場等におけるお困りごと発表会（予定） ノーリフティングケア研修（予定） 介護ロボット導入体験会・活用施設見学会</p>
(3) 試験分析実績	※該当なし
(4) その他特筆すべき取り組み内容	<p>【福祉分野の人材育成研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護・支援関連研修 ・障害者支援関連研修 ・介護予防推進研修 ・福祉用具の活用研修
18 的確なニーズ把握に基づく研究推進と迅速な成果普及	<p>立地環境を生かした多様なニーズ発掘及び関係機関等との連携により実践的な研究開発の推進を図るとともに、研究成果を広く県民に還元するための迅速な成果普及に取り組む。</p>
(1) ニーズ把握の情報チャネルの充実強化	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する病院や福祉施設等の利用者及び医療・福祉専門職のニーズを研究開発に反映 ・企業、医療・福祉関係団体等との共同研究・事業の実施 ・県内市町の健康増進・介護保険担当部署との連携
(2) 成果普及のための手段充実	<p>【機関誌やホームページによる情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「アシステック通信」の発行 各年度1回 ・福祉のまちづくり研究所報告集の発行 各年度1回 ・ホームページによる研究活動等の紹介 <p>【展示会等における研究成果物の出展】</p> <p>令和2年度 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会 国際フロンティア産業メッセ2020 シーズ・ニーズマッチング交流会2020</p> <p>令和3年度 第58回日本リハビリテーション医学会学術集会 国際フロンティア産業メッセ2021 シーズ・ニーズマッチング交流会2021 リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫2021</p>

		<p>しあわせの村ユニバーサルフェスタ 令和4年度 しあわせの村春まつり健康増進フェア バリアフリー2022 国際フロンティア産業メッセ2022 第33回こうべ福祉・健康フェア しあわせの村ユニバーサルフェスタ 令和5年度 バリアフリー2023 国際フロンティア産業メッセ2023（予定） 国際福祉機器展 H.C.R. 2023（予定） しあわせの村秋まつり福祉健康フェア（予定） こうべユニバーサルデザインフェア（予定）</p> <p>【新聞やテレビ等の取材の受入】 令和2年度 テレビ番組1件、新聞記事3件 令和3年度 テレビ番組1件、新聞記事5件、ウェブ記事2件 令和4年度 テレビ番組1件、新聞記事3件 令和5年度 新聞記事1件</p>
	(3)開かれた試験研究機関の推進	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の積極的な情報発信（上記18(2)参照） 県内市町や医療・福祉関係団体等からの講師派遣や委員等委嘱要請に対する各種専門領域職員の派遣等 (R2:13件 R3:20件 R4:15件 R5:7件) 大学等からの実習生受入 (R2:2人 R3:3人 R4:9人 R5:0人) 福祉用具展示ホールにおける個人・団体の見学受入 (R2:3,484人 R3:4,061人 R4:46,17人 R5:1,311人)
19	機関の自主性・効率性を高める業務運営の展開	<p>研究・普及指導等の活動を円滑かつ効果的に実施するため、自主的・効率的な業務運営に向けた改善に取り組む。</p>
	(1)分野横断的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する病院や福祉施設等の連携による多様なニーズに対応した研究開発の推進 県立工業技術センターとの連携による研究活動の活性化の推進
	(2)研究マネジメント機能の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> 企画運営委員会での外部評価及び業務運営に関する報告及び助言 各研究ミッションのリーダーによる、研究進捗・予算執行の適切な管理
	(3)知的財産の創出と有効活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 職務発明の申請・審査を迅速に行うための運営法人本部との連携 特許出願・審査・認定を効率的に行うための外部専門家との連携 知的財産を含む研究成果物の製品化に向けた企業等との連携
	(4)機動的、弾力的予算の運用	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動への科研費等外部資金の活用 介護ロボットの普及啓発活動への国等委託事業の活用
	(5)人材の育成、活性化	<ul style="list-style-type: none"> 研究ミッションリーダーへの若手の登用 県立工業技術センターとの連携による若手研究員の育成 外部人材の活用による義肢装具士の育成 企業、医療・福祉関係団体等との共同研究・事業の実施 大学等からの実習生受入（業務意識向上、人材確保） 日本福祉のまちづくり学会や日本リハビリテーション工学協会等各種学会等への参加・発表

20	産学官連携ネットワークの一層の強化	県立試験研究機関の限られた資源を活用するため、大学や他の研究機関、産業支援機関などとの県域内及び広域的な産学官の連携ネットワークの強化に取り組む。
	(1)産学官連携ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○大学、企業との共同研究の実施（上記 17(1)参照） ○自治体や医療・福祉関係団体等が実施する産学官連携事業への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉のまちづくりアドバイザー関係（兵庫県） ・あかしインクルーシブ条例関係（明石市） ・福祉用具採択審査・技術委員会（新エネルギー・産業技術総合開発機構）
	(2)公立試験研究機関との広域連携ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・県立工業技術センターとの連携による、共同研究や情報交換等の実施
	(3)地域内の連携ネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・西播磨総合リハビリテーションセンター及び但馬長寿の郷との連携による福祉用具・介護ロボットの展示イベントの実施 ・兵庫県生きがい創造協会、こうべ市民福祉振興協会との連携による普及啓発事業の実施

【様式】福祉のまちづくり研究所機関評価自己評価シート

研究機関名	福祉のまちづくり研究所	ページ	1
-------	-------------	-----	---

区分	評価項目	評価の視点	取り組み実績の概要	課題及び今後の展開方向	県立試験研究機関の長による自己評価
1 各 機 関 の 個 別 項 目	(1) 基本的 方向	○機関の役割を果たしているのか。	ユニバーサル社会づくりの拠点として、病院や福祉施設などが集積する立地環境を生かし、多様なニーズの発掘と関係機関との連携による実践的な事業の推進に取り組んだ。 ○研究開発 最先端の人間装着型ロボットを用いたリハビリテーション手法の開発（隣接病院及び海外の義肢メーカーとの連携）といった先進的・国際的な研究を推進するとともに、障害者や高齢者等のニーズを反映しながら、筋電義手やフレイル対策機器等の開発を推進した。 ○介護ロボット等の開発支援、導入支援、普及推進 介護ロボットや福祉用具に関する福祉用具展示ホールにおける常設・企画展示や西播磨総合リハビリテーションセンター及び但馬長寿の郷との連携による巡回展示等の情報発信に加え、介護ロボット等の開発を目指す企業及び導入を検討している福祉施設等への情報提供、相談対応、機器の評価等を行い、介護ロボット等の開発・導入支援及び普及を推進した。 ○研修 認知症介護研修等の県からの委託による法定研修の実施及び法定研修修了者のフォローアップ研修や介護する側、受ける側双方の安全・安心なサービス提供・ケアの取組の普及促進のためノーリフティングケア研修を実施した。 ○その他 福祉用具の適合相談などを行うテクニカルエイドサービスを実施した。 補装具製作施設として、小児筋電義手の製作・修理を行った。 子ども用の筋電義手の普及を目的とした小児筋電義手バンクの運用を行った。	【課題】 多様なニーズに対応できる専門人材の確保。 事業を円滑に推進するための財源の確保。 事業を円滑に推進するための大学や企業等との連携。 【今後の展開方向】 各種事業を積極的に推進するため、優秀な人材確保、科研費等外部資金の獲得、大学や企業等との連携に努める。	ユニバーサル社会づくりの拠点として、障害者、高齢者及び医療福祉職のニーズを的確に捉え、当研究所の能力・実績を活かした実践的な事業を組織的に推進している。 引き続き、多様化するニーズに対応できるように、蓄積されたノウハウを生かし、所内各部署が連携しながら効果的な取組を進めていきたい。
	(2) 業務の 具体的展 開	○研究の重点化の内容に沿った研究は行えているか。	令和2年度から「AI・コミュニケーションミッション」及び「ロボットテクノロジーミッション」の2ミッションによる研究体制とし、県民ニーズを的確に捉えた研究業務への重点化を推進した。 「AI・コミュニケーションミッション」 高齢者のフレイル対策に着目した研究に重点を置き、県や市町のフレイル予防施策と連携しながら高齢者の協力を得た実践的な機器開発を行っている。 「ロボットテクノロジーミッション」 臨床で活用できるロボット機器を中心に、障害者等のニーズを的確に反映した研究開発を行っている。 ※実績：様式 1 17（1）参照	【課題】 研究成果の製品化に向けた連携先企業の探索及びマッチング。 【今後の展開方向】 研究成果を障害者や高齢者等が利活用できる「本当に役立つもの」とするため、研究成果の製品化に向けた取組を推進する。	研究の重点化に加え、現場のニーズに即したより実践的な研究開発を行うための研究体制を敷き、限られた研究資源を効率的に活用しながら研究を実施している。その結果、概ね実用的な開発につなげることができているものの、製品化に向けた連携を行うための企業の探索が容易ではなく、連携先企業が見つかったとしても、製品化を前に企業側が撤退することによって製品化に至らなかった事例もある。 引き続き、研究成果の製品化に向けた取組を推進する。
		○試験分析、普及指導等は適切に行えているか。	介護ロボットや福祉用具の開発・導入支援及び普及推進を行うため、福祉用具展示ホールにおける相談対応に加え、介護ロボット等の開発を目指す企業及び導入を検討している福祉施設等への情報提供、相談対応、機器の実証評価等を実施した。さらに、厚生労働省の事業である「介護ロボットの開発・評価・普及のプラットフォーム構築事業」(R2～R4)及び「介護ロボット導入・生産性向上支援推進総合事業」(R5～)をそれぞれ受託し、事業の強化に努めた。 ※実績：様式 1 17（2）参照	【課題】 企業内で実施困難な開発機器の実証評価や福祉施設等がそれぞれの施設に合致した介護ロボットを選定するための導入支援は当研究所の能力を活かして先導していく必要がある。 【今後の展開方向】 引き続き、ニーズを的確に反映した実用的な介護ロボット等の開発・導入支援を行い、その普及に繋げていく。	当研究所の能力・実績を活かした実践的な事業として実施できている。 引き続き、受託事業と合わせた効果的な取組を推進する。
2 共 通 取 組 項 目	(1) 的確な ニーズ 把握に 基づく 研究推 進と成 果普及	○ニーズ把握の情報チャンネルの充実強化は図られているか。	病院や福祉施設等に隣接する立地環境を活かし、各施設の利用者及び医療・福祉専門職のニーズを研究開発に反映した。また、令和2年度に実用的な介護ロボット等の開発に向けた福祉現場と開発企業の交流機会を創出する場として「ニーズ・シーズ 介護ロボサロン」を開設し、既存の研究所の機能と連携させることで、多様なニーズの掘り起こしや企業の機器開発へのマッチングを行う体制を整えた。 さらに、県内外の企業や大学等との意見交換や共同研究開発における情報収集を進めたほか、高齢者の健康増進に関する研究開発においては、県内市町の健康増進・介護保険担当部署との連携を図るなど、ニーズ把握の情報チャンネルの充実強化を行いながら着実な研究成果に繋がった。	【課題】 変化するニーズに的確に対応するための、既存の情報チャンネルの維持、新たな情報チャンネルの開拓。 【今後の展開方向】 引き続き、隣接する病院や福祉施設等との密接な連携を維持するとともに、高齢者の健康増進に関する研究開発を充実させるため、運営法人内の高齢者施設との連携や県・市・町の担当部署との連携を強化する。	病院や福祉施設等に隣接する立地環境を活かし、各施設の利用者及び医療・福祉専門職のニーズを集約することができている。 変化するニーズに的確に対応するため、連携協定先であるしあわせの村等との連携を密にするとともに、新たな情報チャンネルの開拓を行っていきたい。

【様式】福祉のまちづくり研究所機関評価自己評価シート

研究機関名	福祉のまちづくり研究所	ページ	2
-------	-------------	-----	---

区分	評価項目	評価の視点	取り組み実績の概要	課題及び今後の展開方向	県立試験研究機関の長による自己評価
		○成果普及のための手段は充実されているか。	研究成果は、機関誌やホームページ等で積極的に情報発信するとともに、国内展示会や関係学会等への出展を行った。また、テレビ・新聞等の報道取材を積極的に受け入れた。 さらに、介護ロボット等の普及推進として、医療・福祉専門職をはじめとする関係者の理解や見識を高められるよう、介護ロボット等の使用体験会や普及セミナーなどのイベントを実施した。 ※実績：様式 1 17(2)、18(2) 参照	【課題】 新たな情報の展開先の開拓。 【今後の展開方向】 県・市・町のほか、共同研究相手等が持つ情報チャンネルを活用し、研究成果の更なる情報発信に努める。	機関誌やホームページによる情報発信は、概ねタイムリーに実施できている。また、令和2年度以降、コロナ禍による各種イベントの自粛などが続いたが、令和5年度からは、従前どおり、展示イベントへの参加、自主イベントの開催、報道取材の積極的受入れを行っている。 よりタイムリーでわかりやすい情報発信に努め、関係先の情報チャンネルを活用しながら研究成果を広く発信・普及していきたい。
		○開かれた試験研究機関の推進は図られているか。	外部からの講師派遣依頼に対して、研究員やセラピストなどの専門職を派遣したほか、大学や専門学校からの実習受入を行った。また、福祉用具展示ホールにおいては、通常展示の見学対応のほか、特定のテーマに沿った企画展示を開催した。	【課題】 研究成果を公開するためのイベントの充実。 【今後の展開方向】 引き続き、講師派遣、実習受入及び見学受入を行うことで、研究所が持つノウハウを広く県民に還元するとともに、研究成果を公開するイベントを充実させることで、研究業務を含めた研究所の認知度の向上を図る。	職員の講師派遣、大学等からの実習受入、福祉用具展示ホールにおける見学対応など、研究所が持つ機能を活用した対応ができています。 研究成果を公開するイベントについては、対象が関係団体等に限定されがちになっている。また、令和2年度以降、コロナ禍により自粛していたが、コロナ後は、一般の方々にも興味を持っていただけるよう工夫して、研究成果を知っていただく機会を増やしていきたい。
		○成果が県の政策や施策へ活かされているか。	これまで、研究所の成果は、福祉のまちづくり条例、ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例、福祉のまちづくり基本方針等への反映やふるさと兵庫寄附金のメニューに小児筋電義手バンク応援プロジェクトが加えられるなど、県の施策に効果的に活用されてきた。 令和2年度には、福祉のまちづくり基本方針の改定が行われ、介護ロボット等の普及推進を中心とした内容が盛り込まれた。 令和5年度には、「介護ロボット導入・生産性向上支援推進総合事業」を県から受託。「ひょうご介護ロボット導入・生産性向上支援センター（仮称）」を開設し、介護ロボットやICT活用等による介護生産性向上における相談・支援体制を整えた。	【課題】 成果の効果的な県施策への反映。 【今後の展開方向】 主管課との連携を密にし、研究所の成果を県施策へ効果的に反映させる。	研究所の成果は、関係条例の制定等県の施策に活用されてきている。 今後は、時代の変化に合わせて、AI等を活用した高齢者や障害者の支援に関する成果を県の施策に反映できるよう取り組んでいきたい。
(2) 機関の自主性、効率性を高める業務運営の展開 ① 分野横断的な取組強化	○分野横断的な取組強化は行われているか。 ○県立試験研究機関間の連携強化は行われているか。 ○各県立試験研究機関内の連携強化は行われているか。	○分野横断的な取組強化 令和3年度に人間装着型ロボットを用いたリハビリ手法の開発・確立・普及を推進するための「最先端歩行再建センター」を開設。隣接するリハビリテーション中央病院と連携し、脊髄損傷者の歩行再建に関する研究を推進した。 ○所内の連携強化 令和2年度に介護ロボット等の開発・導入支援と普及、福祉人材の育成に資する研修の有機的な機能連携を推進する部門として、介護ロボット開発支援・普及推進・研修センターを設置。介護ロボット等に関する企業への機器開発支援や福祉施設等への導入支援、介護ロボット等を取り扱う人材の育成などを推進し、ロボットリハビリテーション拠点としての充実を図った。 令和2年度に実用的な介護ロボット等の開発に向けた福祉現場と開発企業の交流機会を創出する場として「ニーズ・シーズ 介護ロボサロン」を開設し、既存の研究所の機能と連携させることで、多様なニーズの掘り起こしや企業の機器開発へのマッチングを行う体制を整えた。(再掲) ○県立試験研究機関間の連携強化 県立工業技術センターとの共同研究や情報交換等を実施し、連携に努めた。	【課題】 介護ロボット等の開発・導入支援と普及、福祉人材の育成に資する研修の有機的な機能連携の推進。 県立試験研究機関間の連携強化。 【今後の展開方向】 引き続き、隣接する病院や福祉施設等と連携したロボットリハビリテーション拠点としての事業展開を推進する。 研究所が持つノウハウを活かし、県の委託事業と絡めた介護ロボット等の開発・導入支援と普及、福祉人材の育成に関する事業を積極的に推進する。 県立工業技術センターとの共同研究や情報交換等を実施し、若手研究員の育成及び研究機関の運営体制の強化を図る。	隣接する病院や福祉施設等と連携し、ロボットリハビリテーションの拠点化を推進している。 組織改編や施設整備により、介護ロボット等の開発・導入支援と普及、福祉人材の育成に関する事業の推進体制を整えつつ、令和5年度からは、県の「介護ロボット導入・生産性向上支援推進総合事業」を受託し、介護現場の生産性向上に関する総合的な事業を展開している。 引き続き、各機関連携を強化し、時代のニーズに合わせた本場に役立つものの提供を推進していきたい。	
② 研究マネジメント機能の充実強化	○対外、対内マネジメント機能の充実・強化は図られているか。 ○研究評価システム	研究マネジメントについては、各研究ミッションにおいてミッションリーダーの指揮の下、研究が進められており、研究の進捗状況や予算執行状況を情報共有し、適切に管理を行った。被験者の協力を求める研究を開始する前には、「個人情報保護」や「リスクマネジメント」の観点から、その都度、倫理委員会を開催した。 研究課題の評価については、研究課題等評価調整会議（内部評価）及び企画運営委員会（外部評価）を開催し、受託研究テーマの事前評価、事後評価及び追跡評価を行った。	【課題】 管理・監督職の育成を含めた研究マネジメント機能の強化。 【今後の展開方向】 管理・監督職を計画的に育成・確保し、安定した研究マネジメント体制を維持する。	管理・監督職によるマネジメントに加え、ミッションリーダーの配置によるマネジメントの強化を行っている。 現行の研究マネジメント体制を維持するとともに、管理・監督職の育成・確保に努めたい。	

【様式】福祉のまちづくり研究所機関評価自己評価シート

研究機関名	福祉のまちづくり研究所	ページ	3
-------	-------------	-----	---

区分	評価項目	評価の視点	取り組み実績の概要	課題及び今後の展開方向	県立試験研究機関の長による自己評価
		<p>の適切な運用と改善は行われているか。</p> <p>○毎年度の中期事業計画のフォローアップを行っているか。</p> <p>○研究課題のマネジメント体制は適切か。</p> <p>○研究課題の評価結果をマネジメントに適切に反映されているか。</p>			
③	知的財産の創出と有効活用の促進	<p>○県有知的財産の創出、活用体制の整備はできているか。</p> <p>○知的財産に関する関係機関との連携強化は図られているか。</p> <p>○職員のインセンティブの充実は図られているか。</p> <p>○研究成果の知的財産化及びその利用は十分に行われているか。</p>	<p>知的財産を効果的かつ円滑に創出し、管理・活用を図るため、職務発明審査会（法人本部所管）開催に係る法人本部との連携、特許出願手続きや知識習得のための特許事務所との連携、知的財産を事業化するための連携先の開拓等を実施した。</p> <p>令和2年度には「経営戦略企画課」を設置し、知的財産の管理・運用を中心とした事業推進体制の強化を図った。</p> <p>※実績：様式 1 17（1）参照</p>	<p>【課題】</p> <p>知的財産の製品化等による有効活用。 知的財産に関する知識の習得。</p> <p>【今後の展開方向】</p> <p>知的財産を有効活用するため、企業との事業連携を推進するとともに、知的財産に関する知識を習得するための研修会等を特許事務所と連携して実施する。</p>	<p>知的財産の管理・運用に関する体制を整備し、特許取得を重ねてきているが、取得した特許技術を用いた製品化等の事業化が進んでいない。</p> <p>職員の知的財産への意識啓発、知識習得として特許事務所の弁理士による研修会を開催した。</p> <p>引き続き、製品化へ向けた企業への積極的なアプローチを行うとともに、職員の知的財産に関する知識習得を進めたい。</p>
④	機動的、弾力的な予算運用	<p>○国等の競争的資金など外部資金を積極的に獲得しているか。</p> <p>○所長の裁量的予算は適切に活用されているか。</p>	<p>○外部資金の獲得</p> <p>科研費のほか、日本医療研究開発機構、科学技術振興機構、厚生労働省等の補助事業等による研究資金や企業等との共同研究による研究資金を獲得した。</p> <p>※実績：様式 1 13 参照</p> <p>○所長の裁量的予算</p> <p>経常研究以外に、戦略的に推進すべき研究（外部資金によらないもの）への対応や年度途中に発生する緊急的な重要課題への即時対応のための予算については、法人本部からの補填を受けながら柔軟に対応している。</p>	<p>【課題】</p> <p>競争的外部資金研究へ応募するための研究シーズの構築と若手人材の確保・育成。 所長の裁量的予算の確保。</p> <p>【今後の展開方向】</p> <p>研究シーズの構築と若手人材の確保・育成を行い、競争的外部資金の確保に努めるとともに、所長の裁量的予算の確保に向けた法人本部との連携を進める。</p>	<p>科研費等の競争的外部資金研究へ積極的に応募し、一定の資金を獲得しており、経常研究以外の戦略的に推進すべき研究における重要な資金源となっている。また、獲得した外部資金に設定されている間接経費については、施設整備における資金源として有効に活用している。</p> <p>引き続き、外部資金の積極的獲得に努めたい。</p>

【様式】福祉のまちづくり研究所機関評価自己評価シート

研究機関名	福祉のまちづくり研究所	ページ	4
-------	-------------	-----	---

区分	評価項目	評価の視点	取り組み実績の概要	課題及び今後の展開方向	県立試験研究機関の長による自己評価
⑤ 人材の育成、活性化		<p>○人事交流の活発化は図られているか。</p> <p>○外部人材の活用は行っているか。</p> <p>○他の研究機関や大学等への派遣を行っているか。</p> <p>○研究員を対象とした研修等を行っているか。</p> <p>○学会等へ積極的に参加しているか。</p>	<p>○人事交流 共同研究や事業の拡大により、大学、企業、国や地方自治体との連携機会が増え、これら連携先の様々な職種との交流を行うことで、関係する様々な知識や技術の向上に繋がった。</p> <p>○外部人材の活用 知的財産に関する専門家との業務委託契約を締結し、特許申請手続きにおける的確なアドバイスを受けることができおり、特許の円滑な取得に繋がった。また、義肢装具会社からの出向により熟練の義肢装具士を配置し、若手の義肢装具士の育成を行った。</p> <p>○他の研究機関や大学等への派遣 国、県、市町等の要請に応じ、それぞれが実施する事業等への講師派遣を行い、連携体制の構築や維持に繋がった。</p> <p>○研究員を対象とした研修 研究所内の定期的なミーティングにおいて若手職員への指導教育を実施しているほか、経験年数に応じた職場での役割意識を高めるため、法人内で職員研修の機会を提供している。また研究倫理に関して、一般財団法人公正研究推進協会が提供する e-Learning コースを全研究員に受講させている。</p> <p>○学会等への参加 「日本福祉のまちづくり学会」「リハ工学カンファレンス」をはじめとした各種の関連学会への参加や国内外における学会発表、論文発表を行っている。</p>	<p>【課題】 多様な事業に対応できるフレキシブルで有能な人材の確保・育成。</p> <p>【今後の展開方向】 研究所内外のさまざまな機会を活用した人材交流や研修等による人材育成を進めるとともに、外部人材の活用を含めた優秀な人材の確保を図り、時代のニーズに応える先進的な事業の推進体制を構築する。</p>	<p>連携先との積極的な交流を進め、講師派遣や研修とあわせて、職員の能力向上や組織の活性化を図っている。 引き続き、時代のニーズに対応した先進的な事業に即応できるよう、人材の育成と組織の活性化を図りたい。</p>
3 業務執行体制	(1) 組織	<p>○意思決定が速やかに行える組織となっているか。</p> <p>○研究現場の創意工夫が活かされる組織となっているか。</p>	<p>研究所の運営に関する会議については、定例会議は行わず、重要事項等を議論する場として必要に応じ開催している。急を要する事項は随時所長に報告して決定を仰ぐなど、無駄な時間を省き、より速やかに意思決定を行っている。 研究現場においては、研究ミッションリーダーが各担当者の研究の進捗状況やグループ内の課題の把握に努め、情報を共有しながらミッション間の連携を行っている。</p>	<p>【課題】 管理監督職、ミッションリーダーによるマネジメント能力の向上。</p> <p>【今後の展開方向】 マネジメント能力の向上を中心とした組織力を高めるための人材育成を行い、個々の専門性と組織力が融合した強靱な研究体制の構築を図る。</p>	<p>ミッション制によって、効率的な研究推進体制が構築できている。 ミッションリーダーに対して管理監督職候補者向け研修を受講させるなど、マネジメント能力の向上に努め、研究体制の強化を行いたい。</p>
	(2) 人員	<p>○人員は有効に活用されているか。</p>	<p>新たなニーズや高度化する課題に対応するため、AI等の知識技能を持った研究員を確保し、研究体制の強化を行った。</p>	<p>【課題】 正規研究員の計画的な採用及び育成。</p> <p>【今後の展開方向】 正規研究員の年齢構成、専門分野を考慮した採用及び組織内の役職を考慮した育成を計画的に推進する。</p>	<p>専門分野を活かした研究体制を構築することができている。 一方で、正規研究員の年齢は40歳以上であり、半数以上が50歳を超えている中で、管理監督職候補者の育成が進んでいない。 年齢構成や専門分野を考慮した切れ目のない職員採用及び管理監督職候補者の育成に努めたい。</p>

【様式】福祉のまちづくり研究所機関評価自己評価シート

研究機関名	福祉のまちづくり研究所	ページ	5
-------	-------------	-----	---

区分	評価項目	評価の視点	取り組み実績の概要	課題及び今後の展開方向	県立試験研究機関の長による自己評価
(3) 事業費	○試験研究費、事業費、維持管理費は、有効に活用されているか。		経費節減に努め、計画的な予算執行により効率的な運営に努めた。また、科研費等の競争的外部資金の間接経費や介護ロボット等の開発支援に係る実証評価委託料を維持管理費に充てるなど柔軟な対応を行った。 ※実績：様式 1 12 参照	【課題】 光熱水費の高騰や施設・設備の老朽化対応による維持管理費の圧迫。	概ね、予算どおりの運営はできているが、維持管理費については、運用コストがかかる施設・設備に加え、老朽化による修繕コストが増加しているため、科研費の間接経費や県立社会福祉施設整備費等を活用して対応している。 不安定性はあるものの、科研費等外部資金の獲得に努めるとともに、県立社会福祉施設整備費を活用した計画的な修繕を行うなど、増大する維持管理費への対応に努めたい。
				【今後の展開方向】 科研費等外部資金の獲得に努めるとともに、県立社会福祉施設整備費を活用した計画的な修繕を行うなど、増大する維持管理費への対応を図る。	
(4) 施設・設備	○施設・設備は有効に活用されているか。 ○維持管理は適切に行われているか。 ○機器は共同利用等により効率的に活用しているか。		各種事業を実施するため、研究所内の施設・設備を有効に活用した。 令和2年度に開設した「ニーズ・シーズ 介護ロボサロン」については、主に実用的な介護ロボット等の開発に向けた福祉現場と開発企業の交流機会を創出する場としての活用を想定していたが、コロナ禍により本格的な運用ができなかった。 令和3～4年度には計画修繕を実施し、外壁の修理、屋上防水、空調・電気設備の一部更新等を行った。	【課題】 施設・設備の老朽化。	概ね、研究所内の施設・設備を有効に活用できている。「ニーズ・シーズ 介護ロボサロン」については、コロナ後は本格的な運用を行う予定である。 令和3～4年度には県の計画修繕を受けたが、対象外となった箇所も多く、令和5年度に入ってから雨漏りや設備の故障が頻回に発生し、その対応に経費を割いている。 施設・設備の修理や更新には多くの費用がかかるため、県及び法人本部と協議しながら適宜実施していきたい。
				【今後の展開方向】 施設・設備の適切な保全を行うために必要な整備を県及び法人本部と協議しながら進めていく。	

評価者名	
試験研究機関名	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
ページ	1

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
1 各 機 関 の 個 別 項 目	(1) 基本的方向	○機関の役割を果たしているのか。	【評価基準】 高 ←————→ 低 A B C D E (コメントがあればお書きください)	
	(2) 業務の具体的展開	○研究の重点化の内容に沿った研究は行えているか。 ○試験分析、普及指導等は適切に行えているか。	【評価基準】 高 ←————→ 低 A B C D E (コメントがあればお書きください)	
2 共 通 取 組 項 目	(1) 的確なニーズ把握に基づく研究推進と成果普及	○ニーズ把握の情報チャンネルの充実強化は図られているか。 ○成果普及のための手段は充実されているか。 ○開かれた試験研究機関の推進は図られているか。 ○成果が県の政策や施策へ活かされているか。	【評価基準】 高 ←————→ 低 A B C D E (コメントがあればお書きください)	
	(2) 機関の自主性、効率性を高める業務運営の展開 ①分野横断的な取組強化	○分野横断的な取組強化は行われているか。 ○県立試験研究機関間の連携強化は行われているか。 ○各県立試験研究機関内の連携強化は行われているか。	【評価基準】 高 ←————→ 低 A B C D E (コメントがあればお書きください)	

兵庫県立福祉のまちづくり研究所 機関評価シート

評価者名		ページ	2
試験研究機関名	兵庫県立福祉のまちづくり研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
2 共通 取組 項目	②研究マネジメント機能の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> ○対外、対内マネジメント機能の充実・強化は図られているか。 ○研究評価システムの適切な運用と改善は行われているか。 ○毎年度の中期事業計画のフォローアップを行っているか。 ○研究課題のマネジメント体制は適切か。 ○研究課題の評価結果をマネジメントに適切に反映されているか。 	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p style="text-align: center;">A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	③知的財産の創出と有効活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○県有知的財産の創出、活用体制の整備はできているか。 ○知的財産に関する関係機関との連携強化は図られているか。 ○職員のインセンティブの充実は図られているか。 ○研究成果の知的財産化及びその利用は十分に行われているか。 	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p style="text-align: center;">A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	④機動的、弾力的な予算運用	<ul style="list-style-type: none"> ○国等の競争的資金など外部資金を積極的に獲得しているか。 ○所長の裁量的予算は適切に活用されているか。 	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p style="text-align: center;">A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	⑤人材の育成、活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○人事交流の活発化は図られているか。 ○外部人材の活用は行っているか。 ○他の研究機関や大学等への派遣を行っているか。 ○研究員を対象とした研修等を行っているか。 ○学会等へ積極的に参加しているか。 	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p style="text-align: center;">A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	

評価基準：A 非常に高い・B 高い・C 普通・D 低い・E 非常に低い

兵庫県立福祉のまちづくり研究所 機関評価シート

評価者名		ページ	3
試験研究機関名	兵庫県立福祉のまちづくり研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
2 共通 取組 項目	(3) 産学官連携ネットワークの一層の強化	<p>○産学官連携ネットワークは構築されているか。</p> <p>○公立の試験研究機関との広域連携ネットワークが構築されているか。</p> <p>○地域内の連携ネットワークの強化は図られたか。</p>	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p>A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	(1) 組織	<p>○意思決定が速やかに行える組織となっているか。</p> <p>○研究現場の創意工夫が活かされる組織となっているか。</p>	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p>A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	(2) 人員	<p>○人員は有効に活用されているか。</p>	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p>A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	
	(3) 事業費	<p>○試験研究費、事業費、維持管理費は、有効に活用されているか。</p>	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p>A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	

評価基準：A 非常に高い・B 高い・C 普通・D 低い・E 非常に低い

兵庫県立福祉のまちづくり研究所 機関評価シート

評価者名		ページ	4
試験研究機関名	兵庫県立福祉のまちづくり研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
3 業務 執行 体制	(4) 施設・設備	<p>○施設・設備は有効に活用されているか。</p> <p>○維持管理は適切に行われているか。</p> <p>○機器は共同利用等により効率的に活用しているか。</p>	<p>【評価基準】 高 ←————→ 低</p> <p>A B C D E</p> <p>(コメントがあればお書きください)</p>	